

1. アンケート結果の反映方針

～環境の将来像～

地域から地球へ みんなで創る 持続可能なまち 府中

〈アンケート結果〉

- ・ 市民は 33.8%が、事業者は 37.4%が選んでいる。

〈反映方針：環境の将来像〉

- キーワードとしても多く挙げられた「みんな」で取り組むことや、「未来」を見据えた環境の将来像を設定することで、より実効性のある計画とする必要がある。
- 市民・事業者合わせて最も多い「地域から地球へ みんなで創る 持続可能なまち 府中」を将来像とする。

基本方針1 脱炭素型のまちを目指します

[地球温暖化対策地域推進計画]

〈アンケート結果〉

- ・ 市民：「気候変動への地域適応」について「優先して取り組むべき」と回答した人の割合が最も高く、次いで「環境に配慮したまちづくりと行動」が高い。「新技術の普及促進」について「優先して取り組むべき」と回答した人の割合（41.8%）が最も低い。
- ・ 事業者：「気候変動への地域適応」について「優先して取り組むべき」と回答した割合が最も高く、次いで「省エネルギーの推進」が高い。「新技術の普及促進」について「優先して取り組むべき」と回答した人の割合（40.6%）が最も低い。
- ・ 「脱炭素社会」「自立分散型社会」の認知度（意味を理解している割合）は市民よりも事業者の方が高い。

〈反映方針〉

- 市民・事業者の安全・安心に直結した気候変動適応策と、市民・事業者による行動が促進させるような取組を実施する必要がある。一方で身近な取組だけでなく、2050 年脱炭素社会を目指すためにも再生可能エネルギーや水素といった新しい技術への理解を促進する必要がある。

基本方針2 人と自然が調和し豊かなめぐみが得られるまちを目指します

[生物多様性地域戦略]

〈アンケート結果〉

- ・ 市民、事業者ともに「水辺の保全と活用」、「緑の保全と活用」について「優先して取り組むべき」と回答した割合が高い。「生物多様性の理解促進」を「優先して取り組むべき」と回答した割合が最も低い。また「生物多様性（3つのレベルの生物多様性）」の認知度（意味を理解している割合）が低い（24.2%、29.7%）。

〈反映方針〉

- 引き続き豊かな自然環境（緑や水辺）と生物多様性を保全し、また自然環境とのふれあい・学習の機会を創出することなどにより、活用を広げる必要がある。一方で生物多様性の重要性について広く理解を促進する必要がある。

基本方針3 循環型のまちを目指します

〈アンケート結果〉

- ・ 市民、事業者ともに「ごみの排出量の削減」について「優先して取り組むべき」と回答した割合が最も高く、次いで「再資源化の促進」が高い。「再利用の促進」について「優先して取り組むべき」と回答した割合が最も低い。市民・事業者それぞれ 54.3%と 54.2%であり全体として循環型社会に対する施策の優先度は高い。

〈反映方針〉

- 食品ロスへの対策や、継続的な意識啓発等によるごみの減量を進めるとともに、資源回収手段の啓発などにより資源循環を促進する必要がある。

基本方針4 安全・安心・快適に暮らせる文化的なまちを目指します

〈アンケート結果〉

- ・ 市民：「快適できれいなまちづくり」について「優先して取り組むべき」と回答した人の割合が最も高く、次いで「水環境の保全」が高い。「大気環境の保全」について「優先して取り組むべき」と回答した人の割合が最も低い。56.7%であり全体として安全・安心・快適に暮らせる文化的なまちに対する施策の優先度は高い。
- ・ 事業者：「水環境の保全」について「優先して取り組むべき」と回答した割合が最も高く、次いで「化学物質の適正管理」が高い。「歴史・文化的環境の保全」について「優先して取り組むべき」と回答した割合が最も低い。57.4%であり全体として安全・安心・快適に暮らせる文化的なまちに対する施策の優先度は高い。

〈反映方針〉

- 引き続き適切な公害対策を継続して実施することで、安全・安心・快適に暮らせるまちを目指す必要がある。

基本方針5 協働・連携のための環境が整ったまちを目指します

〈アンケート結果〉

- ・ 市民、事業者ともに「環境保全センターや中間支援団体を活用したネットワーク構築」について「優先して取り組むべき」と回答した人の割合は 37.9%、43.2%と最も低い。全体として協働・連携のための環境が整ったまちに対する施策の優先度は低い。

〈反映方針〉

- 環境保全活動センターを活用した情報発信や環境学習の機会の創出を行い、環境に関する関心を高めるとともに、事業者や大学などの横断的な主体の連携による取組が創出される仕組みを作る必要がある。

2. アンケート調査結果及び事業者ヒアリング結果の反映について

令和 3（2021）年度に、市民及び事業者を対象としたアンケート調査を実施しました。また、市内で積極的に活動を行っている複数の事業者に聞き取り調査を行い、現在の活動の状況や成果、課題等を伺うとともに、市へのさまざまな要望をいただきました。主な意見は、現在検討中の施策立案において以下のように反映を行っています。

基本方針	基本施策		施策	アンケート調査・事業者ヒアリングでのご意見等
基本施策 1 脱炭素型のまちを目指します （地球温暖化・気候変動への対応） 【地球温暖化対策地域推進計画】	1-1	省エネルギーの推進	①省エネルギー活動の普及促進 ②省エネルギー設備の導入支援 ③市施設の省エネルギー化	← ・目標に対してまだまだ取組が必要という認識は社内で持っている（ヒアリング：キューピー） ⇒省エネルギー設備の導入支援 ・公共施設への省エネ機器の更新、建替えも必要ではないか（アンケート：市民） ⇒市施設の省エネルギー化
	1-2	再生可能エネルギー導入促進	①再生可能エネルギーの導入支援 ②エネルギーの地産地消の促進 ③市施設への再生可能エネルギーの導入	← ・省エネ機器や太陽光発電システム導入への補助を求める意見が多数（アンケート：市民・事業者） ⇒再生可能エネルギーの導入支援 ・日中は太陽光を活用できるが、夜間の電力需要をいかに脱炭素化するかが課題（ヒアリング：東芝インフラシステムズ）
	1-3	新技術の普及促進	①水素エネルギーの理解促進 ②家庭への新エネルギーの普及促進	← ・水素ステーションなどのインフラ整備が進むと FC バスの導入がしやすくなる（ヒアリング：京王バス） ・公用車などの FCV を率先導入することで、需要を創出し、インフラ整備につなげてほしい（ヒアリング：京王バス） ⇒水素エネルギーの理解促進
	1-4	環境に配慮したまちづくりと行動	①脱炭素を目指したまちづくりの推進 ②人と環境にやさしい交通手段の構築 ③都市における緑地の確保 ④子どもたちへの学習機会の提供	← ・自然環境の維持推進から脱炭素社会への展開についても取り入れるべき（アンケート：事業者） ⇒都市における緑地の確保
	1-5	気候変動への地域対応	①水害対策の推進 ②熱中症対策の推進	← ・水害対策の推進を求める意見が多数（アンケート：市民・事業者） ⇒水害対策の推進
基本施策 2 人と自然が調和し豊かなめぐみが 得られるまちを目指します 【生物多様性地域戦略】	2-1	生物多様性の価値の浸透と社会における主流化	①府中市の自然環境（生物多様性）に関する情報の収集と発信 ②自然環境（生物多様性）を知り、体験し、実感できる機会の創出 ③将来を担う子どもたちへの環境教育の充実 ④社会経済活動における自然環境（生物多様性）保全の普及促進	← ・生物多様性の重要性は高いが、認識が広まっていない（アンケート：市民・事業者）
	2-2	府中市固有の生態系と生息環境の保護と回復	①緑地や屋緑などの緑環境と生態系の保全 ②多摩川周辺や用水などの水辺環境と生態系の保全 ③街中の公園や農地など自然をつなぐ小さな自然の保全と創出 ④府中市の生態系を育かす外来種対策	← ・外来生物に関して、駆除だけでなく意識啓発も必要（アンケート：市民） ⇒府中市の生態系を育かす外来種対策 ・敷地内緑化に対する補助金、保存樹木の助成金があるとよい（アンケート：事業者） ・事業所内に専門家のアドバイスを受けながらビオトープを設置している。（ヒアリング：東芝インフラシステムズ）
	2-3	生物多様性保全の担い手が生まれる仕組みづくりの推進	①自然環境（生物多様性）に配慮した生活様式の導入促進 ②主体間のつながりの創出による持続的かつ効果的な保全の展開 ③市境に捉われない広域的な連携の推進	← ・生物多様性の保全は様々な分野に関連した課題（アンケート：市民）
基本方針 3 循環型のまちを目指します （資源循環・廃棄物）	3-1	ごみの発生抑制と再使用の推進	①ごみの発生抑制の推進 ②食品ロスの削減 ③ごみ減量への効果的な周知 ④リユースの推進	← ・フードドライブの取組やフードバンク団体との連携を強化してほしい（アンケート：市民） ⇒食品ロスの削減
	3-2	資源循環の推進	①適正な分別ルール徹底 ②資源回収手段の拡充 ③事業系ごみのリサイクルの推進	← ・分かりやすい資源・ごみの分別の情報発信が必要（アンケート：市民） ⇒適正な分別ルール徹底
	3-3	安定的・効率的なごみ処理体制の確保	①安全で効率的な収集運搬体制の確保 ②一般廃棄物処理施設の整備と運営 ③不法投棄や災害廃棄物対策の推進	← ・高齢者のごみの適正排出への支援が必要（アンケート：市民） ⇒安全で効率的な収集運搬体制の確保
基本方針 4 安全・安心・快適に暮らせる 文化的なまちを目指します （生活環境・歴史・文化）	4-1	大気環境の保全	①大気質の保全 ②アスベスト対策 ③ダイオキシン類対策	← ・公害対策やまちの環境美化に対して、「優先して取り組むべき」と回答した人の割合は年代が低いほど高くなっている傾向がある（アンケート：市民） ⇒引き続き公害対策や環境美化について対応していく必要がある。
	4-2	水環境の保全	①多摩川の水質保全 ②水質汚濁、地盤沈下の防止	← ・水環境の保全を求める意見が複数あり（アンケート：市民） ⇒多摩川の水質保全
	4-3	土壌の環境保全や騒音振動対策、その他公害対策	①土壌・地下水汚染の防止 ②騒音・振動の防止 ③化学物質等の適正管理 ④放射性物質対策、その他新たな公害対策	←
	4-4	快適できれいなまちづくり	①まちの美化対策 ②安全で快適な道路環境づくり	← ・まちの美化を継続的に維持してほしい（アンケート：市民） ⇒まちの美化対策

	4-5	歴史的・文化的環境の保全	①景観の保全 ②歴史的・文化的環境の保全	←	・けやき並木の保全を引き続き取り組んでほしい（アンケート：市民） ⇒歴史的・文化的環境の保全
基本方針 5 協働・連携のための環境が 整ったまちを目指します （環境パートナーシップ・連携・協働）	5-1	事業者・大学との連携による新たな取組みの創出	大規模事業者や大学との連携 ②生物多様性の保全に向けた大学との連携	←	・府中市と連携協定を締結し、今後市と検討を進める予定である。府中市の工場から、キュービー全体へも波及させたい（ヒアリング：キュービー） ⇒大規模事業者や大学との連携
	5-2	環境保全活動を支援するネットワークの構築	①環境保全活動センターの運用 ②市民活動の支援	←	・地域の清掃活動や環境イベントへの参画を検討したい（ヒアリング：ライトボーイ） ・環境保全センターや中間支援団体を活用したネットワーク構築について、全体的に「優先して取り組むべき」と回答した人の割合は低く、特に働き盛りの30代から50代が顕著に低い割合となっている。 ⇒環境保全活動センターの役割について見直す必要があるとともに、特に若い世代や、親子への働きかけを強めて、環境学習や普及啓発活動を推進していく必要がある。
	5-3	環境学習の推進	①環境学習の機会の充実 ②環境学習の指導者の育成	←	・特に学校教育の充実や連携が重要（アンケート：市民） ⇒環境学習の機会の充実
	5-4	情報発信の充実・啓発活動の推進	①環境保全活動センターを中心とした情報の収集と発信 ②啓発活動の推進	←	・最新の技術や制度等に関する情報提供をお願いしたい（ヒアリング：ライトボーイ） ⇒環境保全活動センターを中心とした情報の収集と発信